

## 巻 頭 言

上智大学経済学部にとって、2013年は学部創立百周年を迎えた記念すべき年であった。9月21日に開催された百周年記念行事の統一テーマは「日本社会の再活性化と大学の役割」であり、経済学と経営学の視点から日本社会の現状と課題について熱心な議論がなされた。折しも、2012年の政権交代以降のわが国では、長期にわたるデフレからの脱却を最優先課題とし、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略という、いわゆるアベノミクスの三本の矢による持続的な成長の実現が問われ、日本経済に対する世界的な注目が高まっている。2014年は、アベノミクス三本目の矢となる民間投資喚起のための成長戦略策定で正念場を迎える。

「失われた二十年」と呼ばれる経済的な停滞の時代、わが国は阪神淡路大震災と東日本大震災という未曾有の大震災を経験した。また、地下鉄サリン事件のように、巷間言われるカルト教団と神経ガスサリンという化学兵器によって引き起こされた、従来の日本社会では考えられなかった同時多発テロ事件も起こった。これらの残像は、根深い社会問題として、現在も将来を担う若者にまで暗い影を落としている。決して見過ごしてはならない現代社会の問題であり、大学にとっても正面から向き合う課題であると言っている。2014年は、経済的発展を契機とした転換点となる年であってほしいと願う次第である。

本格的な高度知識基盤型の経済へと変貌を遂げている日本経済に対し、経済的な成長に重きを置く社会に批判的な見方はあるが、マックスヴェーバーを持ち出すまでもなく、資本主義社会は単なる拝金主義では発展しない。経済学部は研究と教育を通じて、グローバルに未来を見据えた視点から思考し、行動する人材を育成し、社会的な諸問題の解決に資する情報発信や知識の創造にかかわっていききたい。

本号は、「創立百周年記念行事特集号」として百周年記念行事の概要を再現する特集を掲載した。この特集号が当日の議論の記憶を呼び起こし、読者に日本社会の将来を考える時間を提供したのであれば、編集の意図は達せられたと言っている。

百周年記念行事と祝賀会の開催にあたっては、経済学部同窓会の経鷺会、ソフィア経済人倶楽部、ソフィア会をはじめとして、多くの関係者に多大なご支援を頂いた。この機会に改めて感謝の意を表し、新たな歴史の一步を踏み出した経済学部に対して、今後も一層のご支援を賜るようお願い申し上げます。

2014年1月

上智大学 経済学部長  
山 田 幸 三